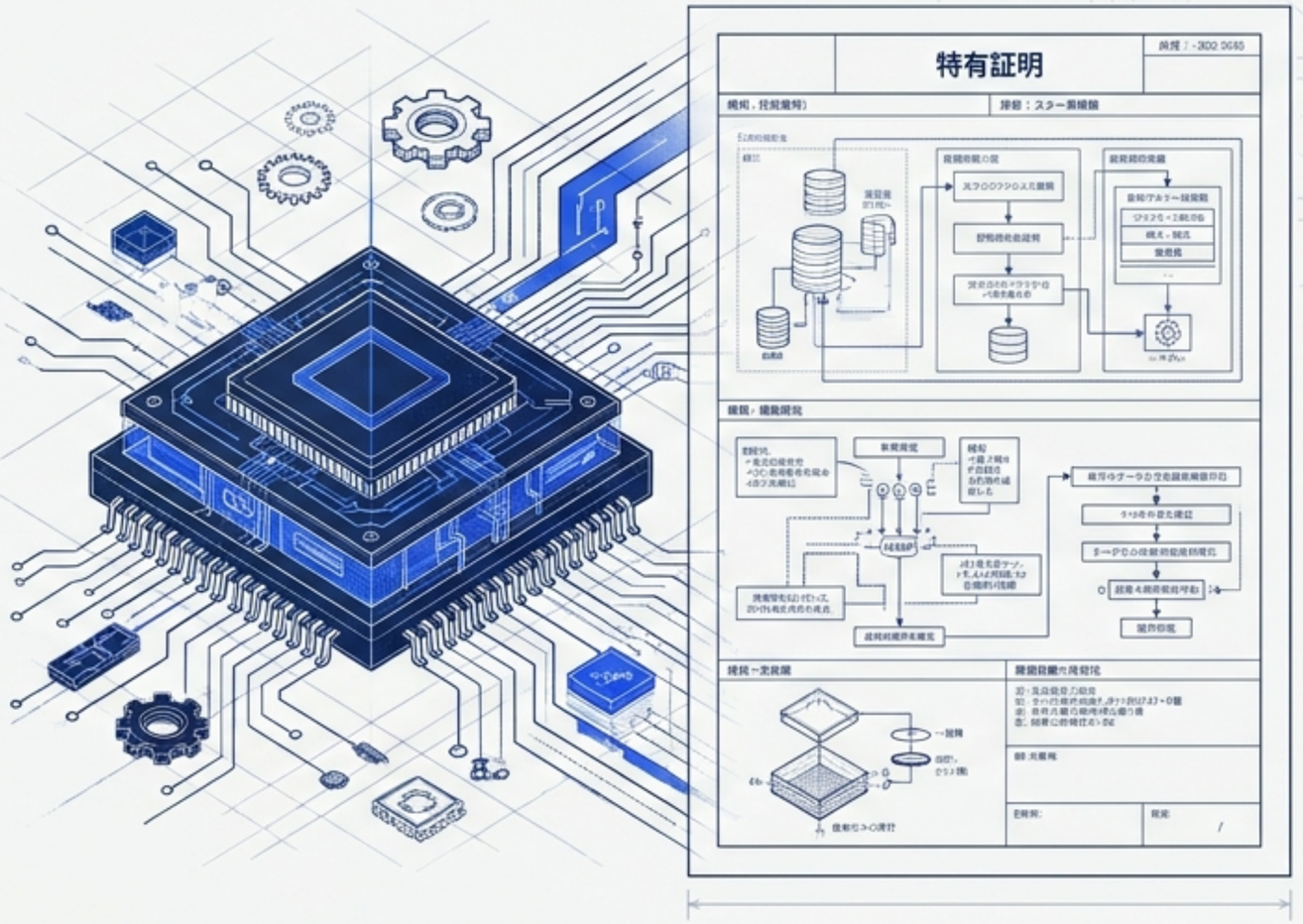
リーガルテック社 知財AI戦略の解剖

現状の機能評価とR&D導入に向けた戦略的デューデリジェンス



調査基準日：2026年11月

対象読者：CTO, R&D部門長, 知財戦略責任者

Gemini Notebook

エグゼクティブ・サマリー：評価の結論

Positioning

R&D前工程への完全シフト



主戦場は「知財部門の専門調査」から「R&D現場の発明整理・計画レビュー」へと移行。

Strengths

強力な導入誘因と個社仕立て



- 対話型UIによる研究者の自己完結
- 1ID単位（月額35,000円）の柔軟性
- 業務に合わせたBespoke（個社仕立て）実装

The Verdict

限定的なPoCを推奨



アイデア創出には極めて有効。
しかし、網羅性・再現率に関する客観的検証が欠如しているため、FTO（侵害予防）調査等への単独利用はハイリスク。

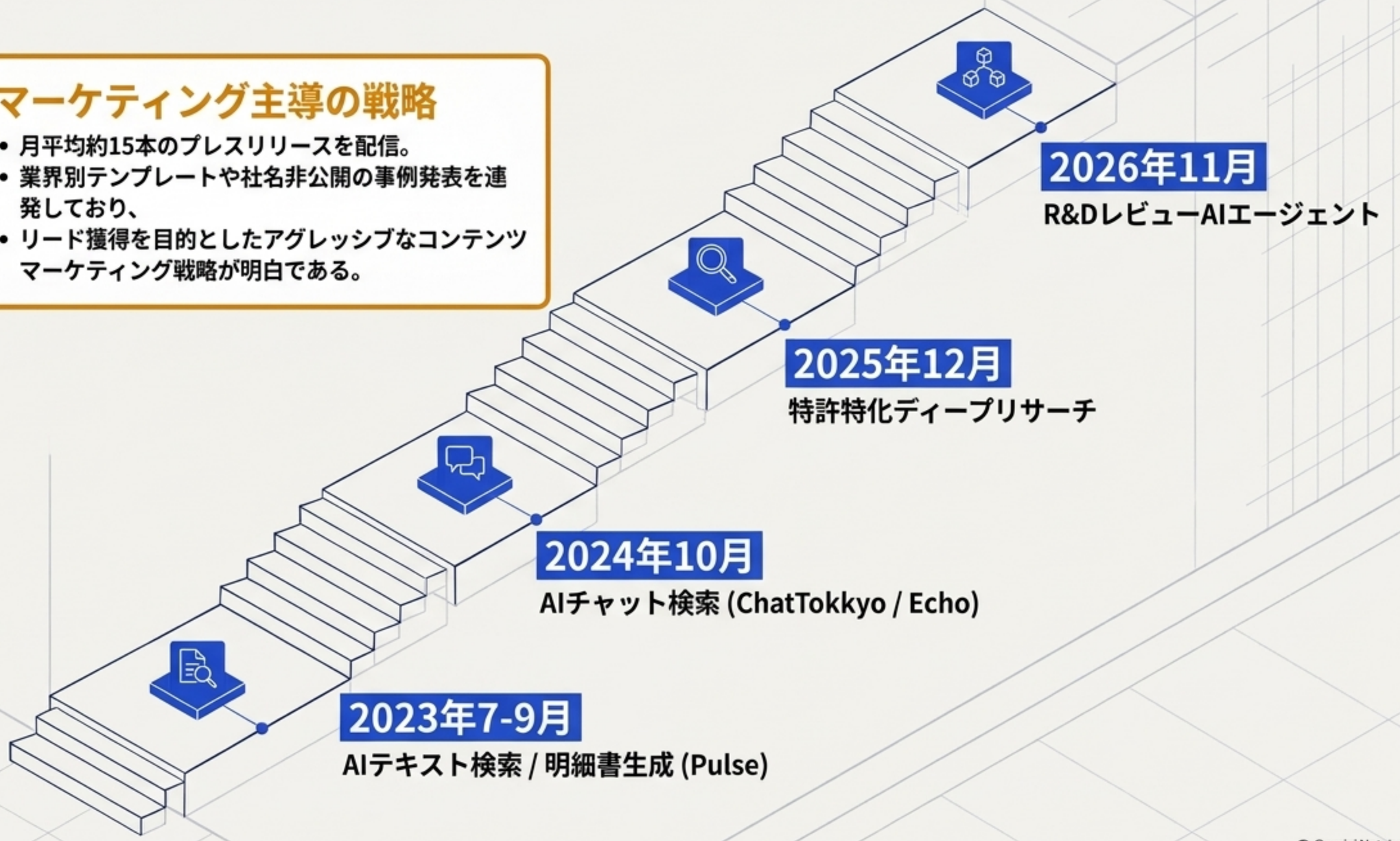
Gemini Notebook

企業軌跡とアグレッシブなピボット



マーケティング主導の戦略

- 月平均約15本のプレスリリースを配信。
- 業界別テンプレートや社名非公開の事例発表を連発しており、
- リード獲得を目的としたアグレッシブなコンテンツマーケティング戦略が明白である。



2026年11月
R&Dレビュー AIエージェント

2025年12月
特許特化ディープリサーチ

2024年10月
AIチャット検索 (ChatTokkyo / Echo)

2023年7-9月
AIテキスト検索 / 明細書生成 (Pulse)

Gemini Notebook

独自エコシステムの解剖図

MyTokkyo.Ai & R&Dエージェント

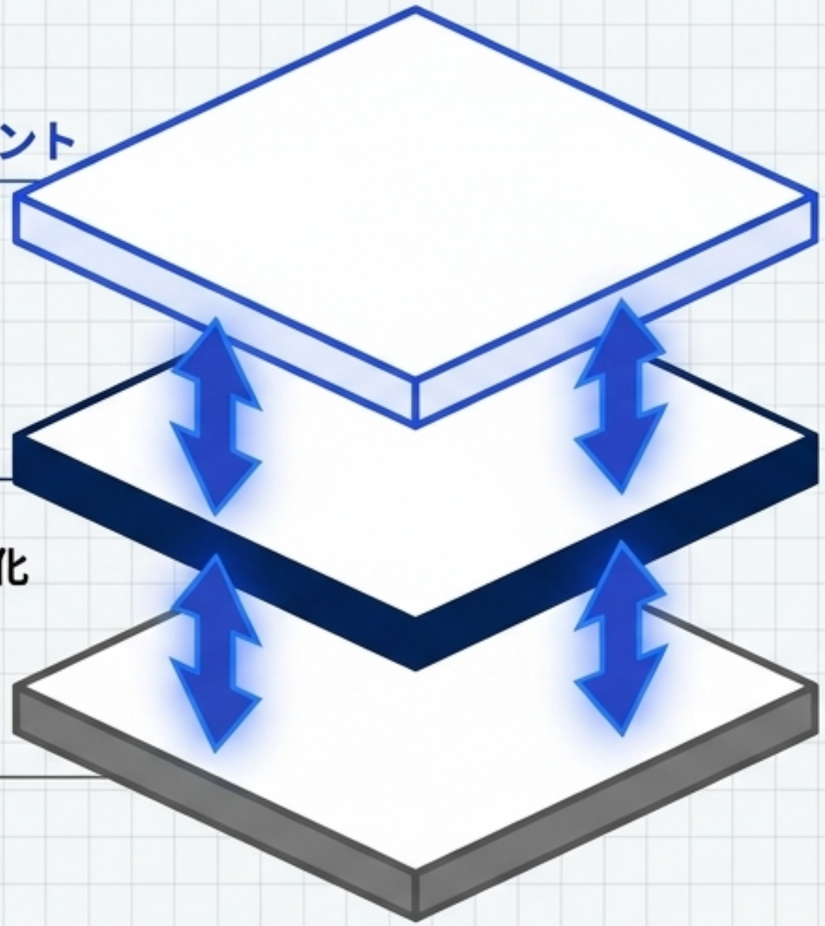
外部特許DB検索 / 生成AIによる自動レビュー・実行環境

IPGenius

社内ナレッジ基盤 / 研究ノート・過去資料の知の資産化

リーガルテック VDR

セキュアなデータ基盤 / ライセンス交渉・段階的開示管理



特許検索にとどまらず、社内の未公開発明からライセンス交渉まで、R&Dデータの全域を自社エコシステム内に統合・囲い込む意図が見える。

Gemini Notebook

MyTokkyo.Ai スペックと未検証リスク

Product ID Card

公表スペック

価格
1ID 月額 35,000円（初期費用0円）

基盤モデル
ChatGPT API (GPT-4o等を採用と発表)

主要機能
ディープリサーチ、明細書案作成、パテントマップ

訴求点
ユーザー専用環境、検索クエリの非流出

ブラックボックス領域

セキュリティ認証
ISO/IEC 27001等の第三者認証の公開なし。

データインデックス
各国の収録開始年、更新頻度、ファミリーの扱いに関する詳細な公開情報が欠如。

実績の不透明性
「1,000社以上」は無料版の数字。有償ID数や継続率の実態は非公表。

Gemini Notebook

R&D AIエージェントの処理ワークフロー

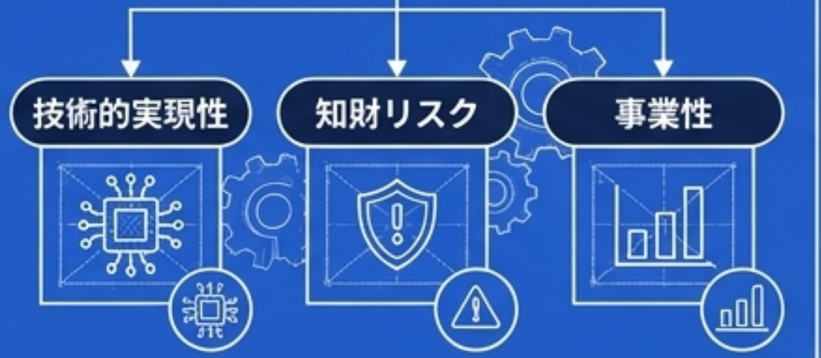
Input: 入力

研究計画書や発明メモの
アップロード
（複数バッチ処理対応）



Processing: AI処理

AIエージェントが特許調査を自動実行



Output: 出力

判断根拠・追加検討事項
を含む自動レポート生成



IPGeniusへ保存

Bespoke（個社仕立て）型アプローチ

企業ごとの業務手順に合わせてカスタマイズ実装するため現場定着には
有利だが、スケーラビリティ（拡張性）や品質の均一性に課題が残る。

Gemini Notebook

競合マトリックス：市場ポジショニング

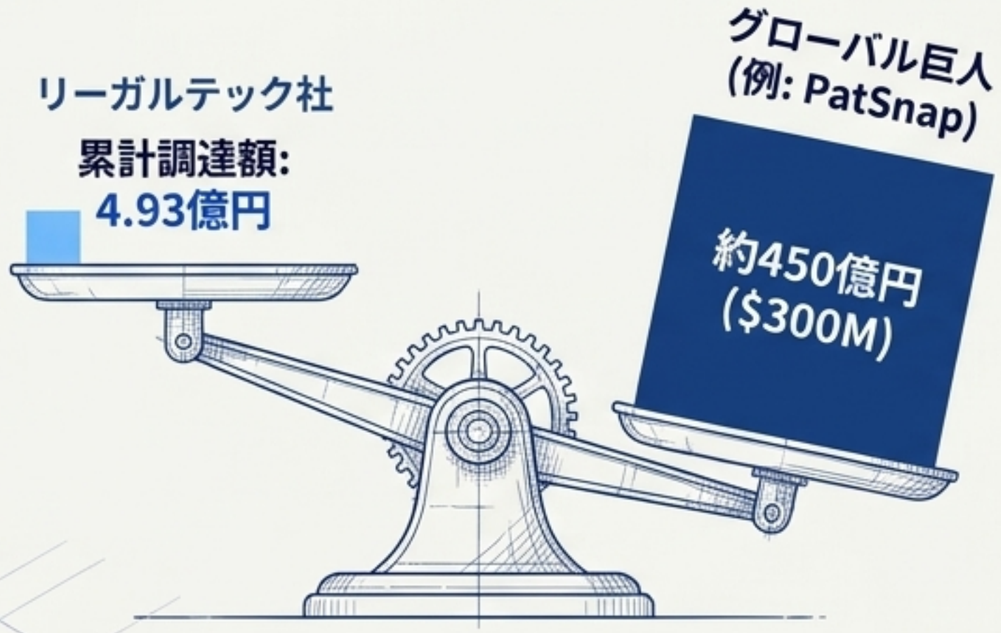
	リーガルテック（MyTokkyo.Ai）	Patentfield	汎用LLM・自社構築
ターゲット	R&D前工程	知財部門・専門家	全社汎用
1ID単価	**3.5万円**	**2万円（mini版）**	**API変動費用**
セキュリティの透明性	⚠️ **未公開**	✅ **ISO取得公開**	✅ **自社統制による**
独自価値	社内データ・VDR統合	大量分析・可視化	究極のカスタマイズ

結論: リーガルテック社はR&D向けの対話UIと社内データ統合では勝るが、専門調査ツールとしてのセキュリティ透明性や分析の深さでは競合に遅れをとっている。

Gemini Notebook

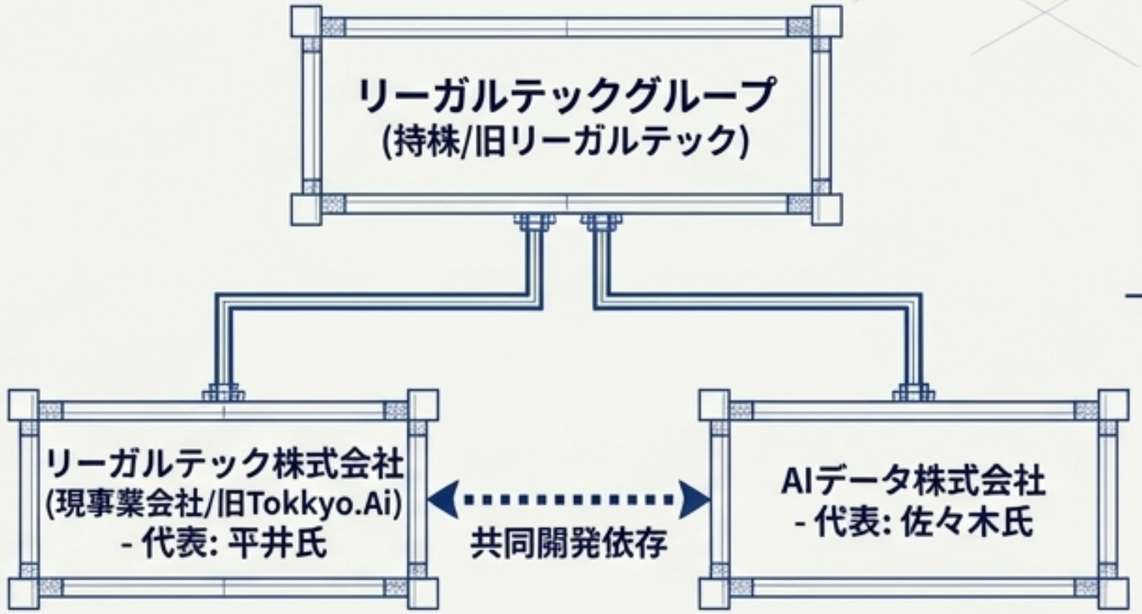
財務と組織構造のリアリティ・チェック

財務的現実（スケール比較）



インサイト:
開発リソースとデータベース品質における圧倒的な資本力の差が存在する。

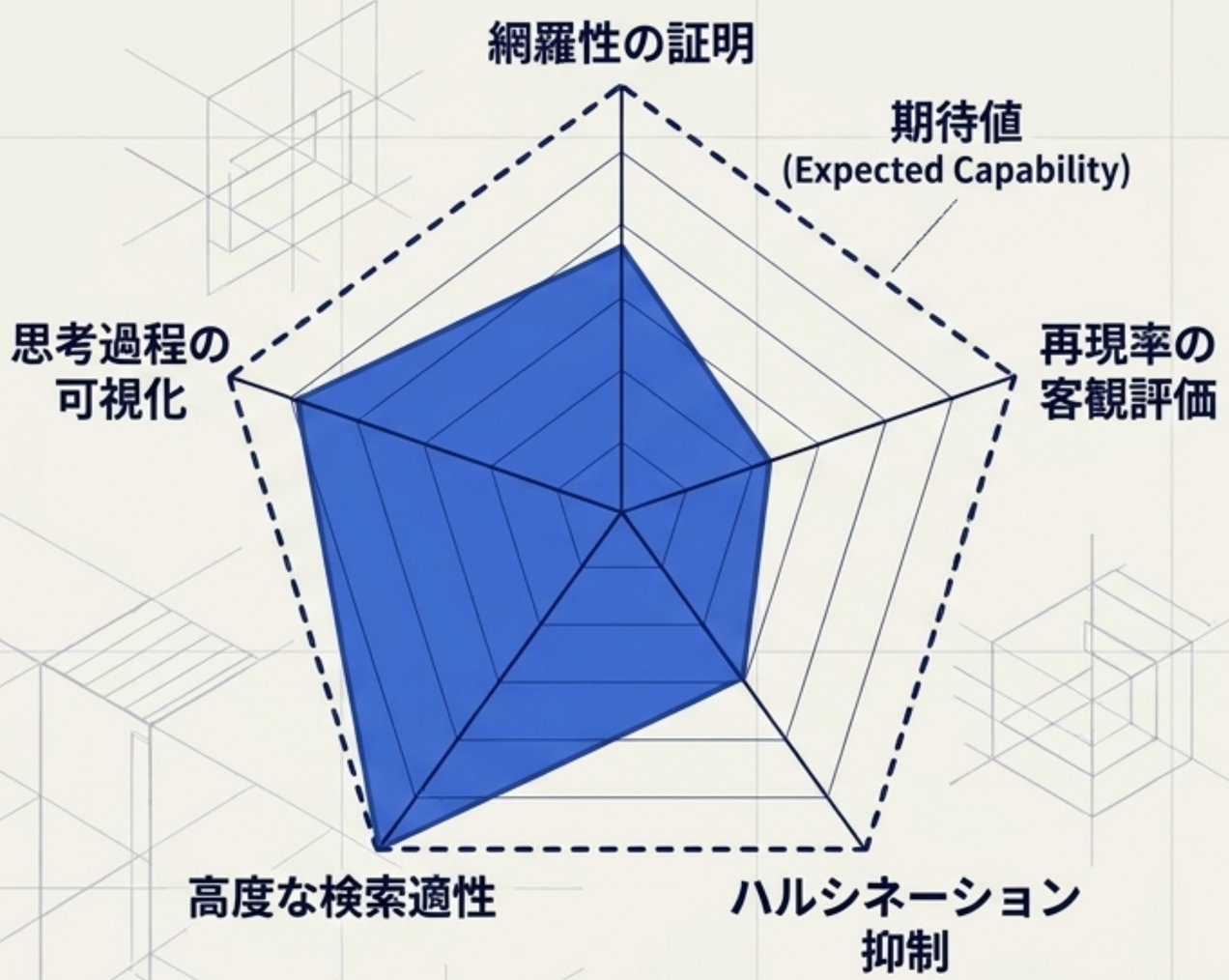
構造的現実（組織ツリー）



インサイト:
開発体制の独立性と責任分界点（SLA）の厳格な確認が必要。

Gemini Notebook

技術的リスク：「ブラックボックス」の解剖



網羅性・再現率の欠落

学会等での客観的な精度評価エビデンスが存在しない。

ハルシネーション抑制の未検証

「思考過程」は可視化されるが、公報取り違えや要約エラーの定量的な抑制データがない。

検索アルゴリズムの不透明性

入力文との類似度順表示への依存。FI/Fターム/CPC等の高度な専門検索適性が不明瞭。

注意: 数十本の検索式で数十件を拾う「当たり付け」は、ノイズを排除した「網羅的調査」の代替にはならない。

Gemini Notebook

法務・コンプライアンスの地雷原



弁理士法75条（非弁行為）リスク

[Risk]

無資格のAIが、権利範囲の属否判断や出願書類の作成を実質的に担うことへの抵触懸念（日本弁理士会 令和7年指針）。

[Defense]

「最終判断は人間が行う」「明細書ドラフトはあくまで基礎資料（弁理士レビュー前提）である」という社内運用の明文化。



新規性喪失・営業秘密リスク

[Risk]

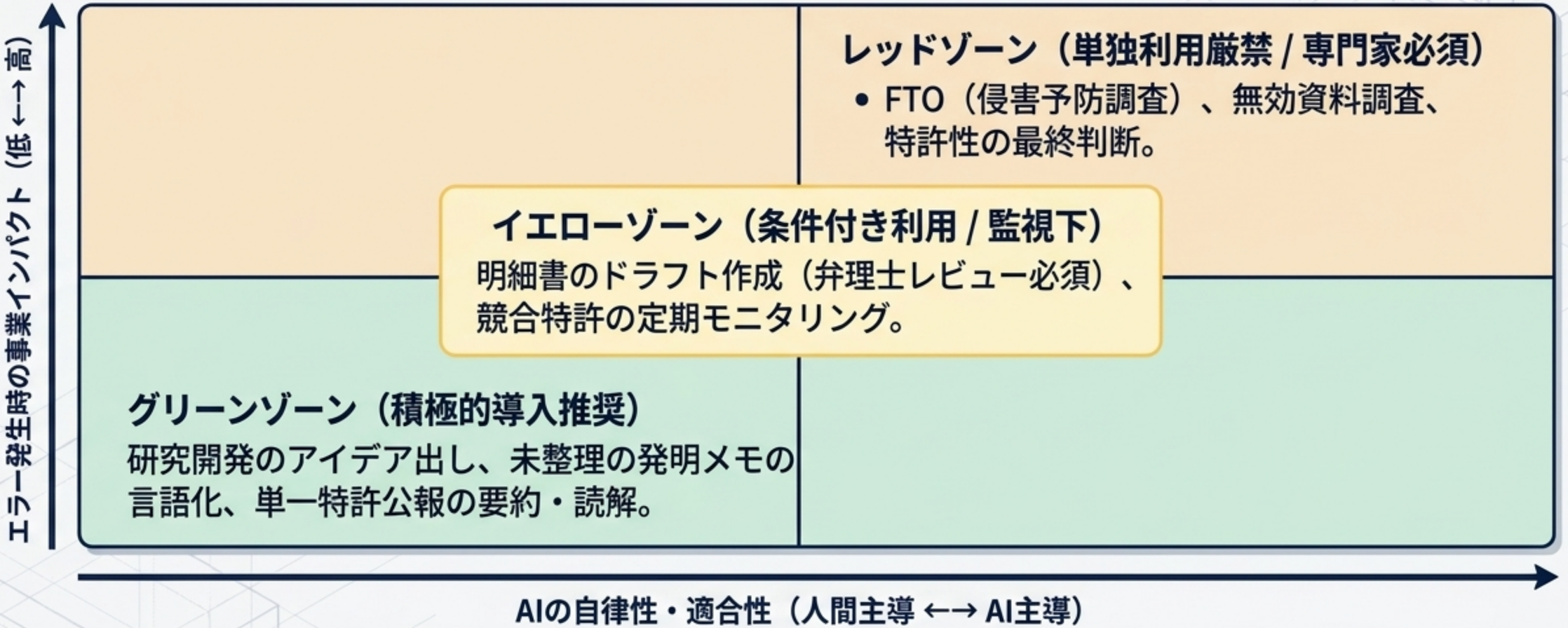
未公開発明をLLMに入力する際、利用規約上に「将来にわたる学習不使用」の明確な保証がない場合、特許法29条1項の新規性喪失を招く恐れ。

[Defense]

Azure/OpenAIへのデータ送信条件、再委託先、監査ログ保持に関する個別契約での確約が必須。

Gemini Notebook

セーフユースケース・マトリックス



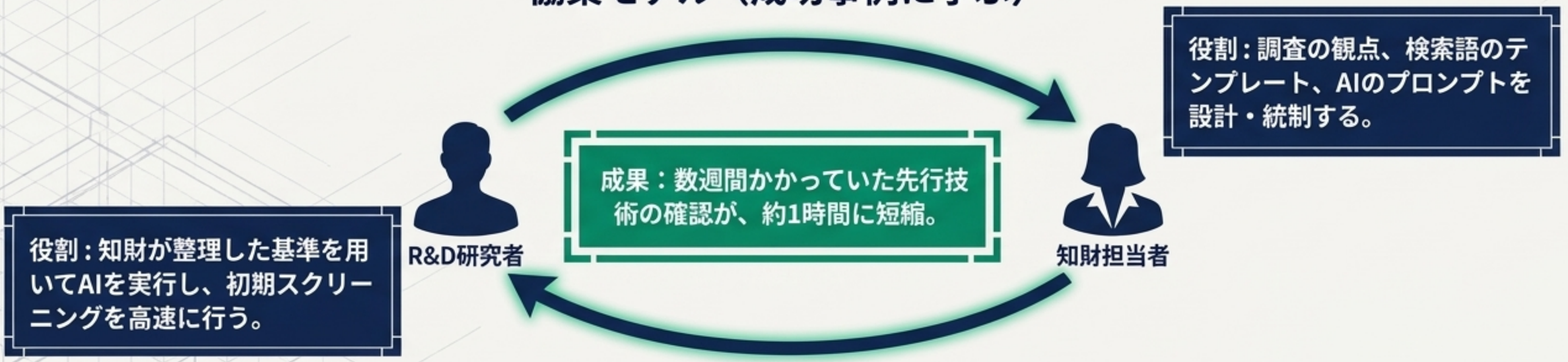
致命的な漏れが許されない『防御の知財』ではなく、スピードが命の『攻めのR&D』に投下せよ。

Gemini Notebook

現場導入の落とし穴：R&Dと知財の断絶



協業モデル（成功事例に学ぶ）



Gemini Notebook

ベンダー評価チェックリスト（The Interrogation Sheet）

- [ ] プロンプト情報のルーティングはAzure OpenAI Serviceのみか？ OpenAI APIにも流れるか？

  Why?
  学習除外の確約を契約上で担保するため。

- [ ] 無料枠を除いた「有償IDの継続率」の実態は？

  Why?
  現場に本当に定着しているかを測る唯一のバロメーター。

- [ ] ISO/IEC 27001等の第三者認証、データ保管リージョン、暗号化方式のエビデンスはあるか？

  Why?
  未公開特許情報（営業秘密）を預けるための社内セキュリティ監査要件。

- [ ] IPGenius等のナレッジベース構築後、解約時にデータをどのような形式で抽出・移行できるか？

  Why?
  ベンダーロックインを防ぐための出口戦略。

Gemini Notebook

安全に検証するための4ステップPoCプレイブック



全機能を使わず、「発明メモの整理」や「初期スクリーニング」など特定の用途に限定する。

既知の重要特許が存在する過去案件（5〜10件）を入力し、既存商用DBと「再現率」「ノイズ率」を比較する。

チェックリストを用い、データ送信条件と非弁行為に関する社内内規程・SLAを確定する。

知財とR&Dの混成スモールチームで1〜2ヶ月運用し、実際の「時間減効果（ROI）」を計測する。

Gemini Notebook

リーガルテック社のAI群は、
R&D上流の『着想』を加速の
『着想』を加速させる強力な触媒であり、
厳格な知財クリアランスの『代替品』ではない。

スピードのために導入し、安全性のために検証せよ。
(Adopt for speed, verify for safety.)



Gemini Notebook